

差別について考えてみましょう！

みなさんは『ちびくろサンボ』というお話を知っていますか？

ヘレン・バナマンというスコットランドの作家が書いた童話で、1899年に初版が出版されて以来、世界各国で翻訳、出版されています。日本でも1953年（昭和28年）に初めて出版されてから、たくさんの人に読み継がれていました。

しかし『ちびくろサンボ』は、1988年（昭和63年）に黒人差別ということで批判され、すべての出版社が自主的に出版を取りやめたのです。また、出版が取りやめられた後に

は、家庭や図書館から『ちびくろサンボ』が集められ、燃やされるということもありました。

こうした措置を支持する声がある一方で『ちびくろサンボ』に愛着を持つ人々からは『なぜ、この素晴らしい作品を消すのか。』と不満が起りました。

その後、1999年（平成11年）に、ある出版社から『ちびくろサンボのおはなし』が原著と同じ内容、装丁、タイトルで復刊されると、2カ月で8万部も売れたそうです。現在では、いくつかの出版社が『ちびくろサンボ』を出版しています。

私たちが日常の中で人種差別をせず、差別用語を用いないのは当然のことです。また『ちびくろサンボ』が差別的であるのかどうかにも、様々な考え方があり、と思います。

10月27日～11月9日は読書週間、12月4日～10日は人権週間です。幼い頃に読んだ童話をきっかけに、差別について考えてみてはどうでしょうか。

東秩父村教育委員会教育長
根岸 敏夫

我が家のニューフェイス



保泉 彩ちゃん
あや

生年月日 平成26年9月23日
(大字坂本)

お父さん：和也さん
お母さん：真由美さん

はじめまして！彩です。
私には、2人のお兄ちゃんがい
ます。ボールで遊んだり、お兄
ちゃんたちを追いかけて毎日元気い
っぱいだよ！！もっと、あんよが
上手になって早く外であそびたい
な♪

東秩父を全力応援！

地域おこし協力隊通信



村が世界に誇る細川紙の手漉き和紙技術の登録から1年が経とうとしています。

東秩父村は埼玉県唯一の小さな村ですが、人はパワーにあふれていると感じています。そのような村民の方と、和紙と村を応援して下さる多くの皆さまと一緒に、何かお祝いでできないかと考えました。

そもそも和紙とは、人に何かを伝え、人と人とがつながるためのもの。そのつながりが見えるようなことを村民＋村のファン＋αの方々とできたら素敵だなと思い、5000人で完成させるちぎり絵アートイベントを実施します。

期間は1ヵ月！誰とでも何度でも参加OK！村民の皆さまのご協力が不可欠です！

あっと驚くような作品を、みんなで作り上げませんか？
ご参加お待ちしております★

【細川紙ちぎり絵アート実施情報】

- 実施期間 10月23日（金）～11月23日（祝・月）の1ヵ月間
※和紙の里が定休日のため月曜（祝・月の場合は翌日）はお休み
※完成発表会 11月26日（木）午前10時
※完成した作品は和紙の里にて展示
- 会場 和紙の里 製造所内ギャラリー
- 時間 午前10時～午後4時
- その他 参加無料、必要な持ち物なし
- 問合せ 産業建設課 ☎82-1223

